

Q₁

建設資金は？

主に合併特例債を
活用します。

合

併特例債は、起債対象事業費の95%まで借り入れることができ、その元利償還金（返済金）の約70%が国から地方交付税として措置されるという起債です。

本庁舎建設に要する概算事業費は約79億8000万円（うち起債対象事業費は約72億円）と想定していますが、合併特例債を活用することで、市の実質的な負担額は約31億9000万円になると見込まれます。（安曇野市の合併特例債の発行は平成27年度末までであ

Q₂

総合支所は
どうなるの？

本庁舎建設後も
必要な機能は残します。

昨

年7月に策定した「本庁舎等建設基本構想」では、現状の総合支所の機能・規模を維持することを基本としています。一方で本庁舎建設は行政改革の大きな柱になるため、極力、市民サービスを低下させない形で総合支所の見直しを進める必要があります。

現在、庁内において、本庁・支所業務の洗い出しと本庁舎建設後を見据えた仕分け作業を行っているほか、「地域審議会」でも総合支所のあり方について検討をお願いしています。これらの作業結果を踏まえ、本庁舎建設後の総合支所のあり方を検討します。

なお、豊科総合支所については、その機能を新たな本庁舎に統合する方向で検討しています。

Q₃

都市計画との
整合は？

将来のまちづくりを見据え、
全市的な見直しをします。

市

では現在、土地利用の状況や将来のまちづくりなどを検討する中で、市内全域の用途地域（3ページ※6参照）について総合的に見直しを行っています。また、都市計画道路（3ページ※7参照）についても、昭和30年代に計画されたものであり、社会情勢、経済状況の変化から、存続、廃止等を含めた見直しが必要となっており、現状の把握作業を行っています。

庁舎建設予定地の近代美術館周辺は、用途地域が「第一種低層住居専用地域」と「第一種住居地域」になっており、敷地の西側には、都市計画道路が計画されており、

Q₄

駐車場は足りる？

周辺に約700台分を確保。

基

本構想では、十分な駐車場として、500台分の確保が必要であると示しています。実際に確保できる駐車スペースは、本庁舎の規模や形状などに左右されますが、近代美術館と豊科プール跡地周辺に、合計

700台程度（公用車約150台を含む）を確保できると見込んでいます。駐車場は、来庁者のほか、美術館、交流学習センター、武道館、教育文化会館などを利用される皆さんに配慮した配置を検討します。



豊科近代美術館周辺。道路の向こう側に見えるのが美術館西側駐車場。さらにその奥には豊科近代美術館と建設中の豊科交流学習センターがある。